

FLEAIマーケット —エコチャリティー 2012

ボランティア

地域交流

代表者：人文学部 3年 菅井 悠香

連携先

(有)森田屋縫製（茨城県指定障害者就労継続支援事業者）・NHK水戸放送局・FMぱるるん・水戸市内地域情報誌メディア・大学周辺近隣店舗・水戸市内の保育園、幼稚園、小、中、高、大学・市民センター

顧問教員

後藤 玲子（人文学部 准教授）

参加者

清野 絢（人文学部 1年）
篠崎 智瑞（工学部 2年）
菅井 悠香（人文学部 3年）
野田 桃子（人文学部 3年）
小野寺 清香（人文学部 3年）
奥津 舞（人文学部 3年）
赤岩 沙紀（人文学部 3年）
武田 まり子（人文学部 3年）
根本 龍一（人文学部 3年）
清水 仁美（人文学部 3年）
斉藤 未来（人文学部 3年）
安島 円香（人文学部 3年）
齊藤 有美（人文学部 3年）
野口 奈津美（人文学部 3年）
松浦 舞（人文学部 3年）
仲村 百恵（人文学部 4年）
坂門 茉美（人文学部 4年）
小野村 奈々（人文学部 4年）

大井 麻衣（人文学部 4年）
中山 聡巳（人文学部 4年）
登坂 直矢（人文学部 4年）
町井 智美（人文学部 4年）
川崎 亜純（人文学部 4年）
田村 博志（人文学部 4年）
藤地 綾香（人文学部 4年）
藤枝 友里（人文学部 4年）
石川 康平（人文学部 4年）
立花 将人（人文学部 4年）
芳賀 愛美（人文学部 4年）
南 智文（人文学部 4年）

プロジェクトの申請内容

●プロジェクトの概要

目的：学生と地域住民の交流活性化
参加者のエコ意識の向上
チャリティーを通じた社会貢献

目標：水戸キャンパスにて、①フリーマーケット ②チャリティーコンサート ③紙パックから作るエコカルタ ④森田屋縫製とのエコワークショップの4つのイベントを開催する。これにより、地域の人々とのFLEAI（ふれあい）や、エコ意識の向上、そして東日本大震災・竜巻被害に見舞われた茨城へのチャリティー活動を実現する企画である。

●実施計画

6月～7月：FLEAIメンバー結成 イベント内容決定、開催日決定、チャリティーコンサートの依頼

8月～9月：出店者呼びかけ、地域への広報活動、フリマ・各イベント準備

10月：イベント準備、開催

●期待される効果

期待される効果は大きく分けて4つある。

①地域住民との交流

毎年1000人以上の来客規模から、今年も大多数の来客が望める。チャリティーコンサートやフリーマーケットなどを通して、茨城大学が様々な年代の地域住民との交流の場となる効果が期待できる。

②地元茨城への支援

昨年同様「モッタイナイSTATION」を運営本部に設置し、フリーマーケットで売れ残った商品を集めリサイクル業者に換金する。加えて、チャリティーコンサートを聞かれた方に感動分を募金して頂き、これらのお金を茨城県に寄付する。これにより、度重なる被害にあった茨城県を支援し、地域貢献を果たすことが出来る。

③エコ意識の向上

フリーマーケット、端切れ布で作るエコバック作り、紙パックの再利用によるエコかるたを通じて、楽しみながらエコ意識向上のきっかけの場となることが期待される。

④大学の活性化

学生に出店してもらうことで、学生発信の新規イベントに繋がり、活気ある茨城大学になる。また、フリーマーケットにより幅広い学生間交流が期待され、大学の活性化に繋がる。

プロジェクトの実施概要

●主な活動内容

①学生フリーマーケット	学生が出店者となり、参加者である地域住民の方々と交流を図る。
②チャリティーコンサート	震災と竜巻被害の様子をまとめたパネルを設置する。そして、茨城大学のサークルにコンサートを行ってもらい、感動分を募金していただく。
③紙パックから作るエコカルタ	紙パックから再生紙が作れることを体験してもらおう。実際に、紙パックで作ったエコカルタを使って遊んでもらおう。
④エコワークショップ	森田屋縫製工場の協力の下、豆乳とコーヒーの染めによるエコバッグ作りや端切れ布からコサージュを作る。

これらの4つのイベントブースを通じて、目的である①学生と地域住民の交流活性化②チャリティーによる茨城の支援③エコ意識の向上を達成する。

プロジェクトの成果報告

当日は不安定な天気にも関わらず、地域住民を中心におよそ1,000人の方々に来場していただいた。年齢層は年配の方から子供たちまで幅広く、「毎年楽しみにしている。今年もとても楽しかった」「是非来年も来たい」という声をいただいた。

●4つの成果

◇地域住民との交流

<フリーマーケット>

フリーマーケットならではの値引き交渉など、学生と地域住民の方々が楽しそうに交流している様子うかがえた。

<チャリティーコンサート>

足を止めて聞いていかれる方が多く見受けられた。また、チャリティーコンサートに感動した地域住民の方がおり、結婚式の余興のお手伝いをするということになるといううれしい波及があった。

<エコカルタ>

子供達を中心に再生紙作り、カルタ大会が盛り上がっていた。カルタという近い距離で行う遊びにより、子供達と仲を深める様子が見受けられた。

<エコバッグ・コサージュ作り>

予定部数がすべて無くなるほどの盛況ぶりだった。子供から大人まで幅広い人たちが、楽しみながら作っていた。

◇地域貢献の達成

チャリティーコンサートのブースに東日本大震災と竜巻被害のパネルを設置し、コンサートの感動分を募金していただいた。また、売れ残った商品を出店者から回収し、リサイクル業者を通して換金する「モッタイナイSTATION」を行った。募金、本部フリマの売上、エコバッグ作りの参加料、そして「モッタイナイSTATION」の換金額の合計**46,620円**を茨城県災害対策本部と茨城県共同募金会へ義援金として寄付することができ、地域貢献を果たせた。

◇エコ意識の向上と継続

エコカルタに参加した子供達から「牛乳パックから紙を作れることに驚いた!」「また作りたい」などの声が上がった。また、出店者にアンケートをとったところ、23組中22組がエコ意識向上のきっかけにつながったと回答した。実際にリユース体験することによりエコをより身近に感じ、関心を持つきっかけ

け作りに貢献できた。

さらに、作ったエコカルタは同学生プロジェクト「GO! GO! キッズ学習支援ボランティア」に寄付し、エコ意識向上の継続を図った。

◇茨城大学の活性化

出店者に行ったアンケートによると、回答者23組中23組が「機会があったらまた参加したい」と回答し、地域交流に対して、向上心を図ることが出来た。また、プロジェクト実習の一貫である「走れ! 茨大捜査線」において、学内イベントとして取材・HPに掲載していただいた。これにより、茨城大学のイベントとしての認知度がアップし、大学の活性化にも繋がった。

フリーマーケットの様子



その他エコイベントの様子



●広報活動

◇学内

認知度を高めるための広報活動を行った。

- ・10講義以上の出張プレゼン
- ・お昼休憩時間に5回のビラ配布
- ・全学部棟に複数枚の告知ポスターを設置
- ・ブログによるイベント情報提供
- ・SNS (Facebook, twitter) を利用したイベント告知
- ・学友会メールを通じた告知

◇学外

メディアを取り込んだ広報活動を実施。

- ・水戸市内の各学校へポスター35枚、チラシ1万枚を配布、設置。
- ・水戸市内の市民センター10箇所にポスター設置
- ・茨城大学周辺店舗30件にポスター設置
- ・ポスティング700枚
- ・読売タウンニュース、SAKUEASAKU、ぶらざにてイベント特集記事掲載
- ・FMぱるるんにてラジオ告知
- ・NHK水戸放送局「お知らせ隊」にて生放送宣伝
- ・ブログにてイベント情報配信
- ・Facebookやtwitterにて情報配信

●参加者より

「地域住民の方とたくさん触れ合えて楽しかったです。来年も参加します！」(出店者)

「エコバッグ・コサージュのクオリティー高かったです。いろんなイベントがあつてとても楽しめました。また来たいです！」(地域住民の方)

●今年得られたこと

◇チャリティー活動による地域貢献

東日本大震災・竜巻被害に見舞われた茨城への復興支援として、チャリティー要素を強

めた。募金額は前年の約2.5倍となり、より大きな社会貢献を果たすことが出来た。

◇地域住民との深まった交流

イベント数を増やしたことにより、地域住民との触れ合う機会が増加した。また、初めてエコバッグ作りで参加料を頂いた。参加者の取組みへの意識が高まるとともに、一人の参加者との関わる時間が増え、深い交流が出来た。

※参加料はすべて義援金として寄付

◇学年・学部の多様化

今年は1年生から4年生まで幅広い学年・学部からスタッフが集まった。様々な視点からの意見が出るだけでなく、今までよりも出店者にも学年・学部にはらつきが生まれ、大学全体に波及することが出来た。

●今後の展望

FLEAIマーケットを通年企画とすることで、学生と地域の交流をより深めていき、地域参画プロジェクトの認知度を上げる。また、来場者の方から「食べ物や飲み物が欲しい」という声が多く上がったので、今後は飲食店を中心に連携先を増やし、幅広い連携を行っていきたい。



連携先の森田屋縫製とスタッフ